

四人目の今の夫を離婚の訴訟中

七つの星に導かれる女優ナンス・グウィン
占師の豫言は活ける事實となつて現はれ来る

永代 美知代

第五番目は年收五萬弗の米國小説家
でなければ七十五歳の氣の好い老人
どちらにしても米國人でなければ嫌
英國人程怖しい亭主は世の中に無い

七人目の理想の夫

嘘のやうな話ですが、本當だから仕方ありません。今紐育で流行の女優、木精に扮装して市民の喝采を博して居るダンサー・ナンス・グウィンはその一生の目的である第七人目の良人を得る準備手段として、現在の良人——第四番目の良人チャールス・ローマー・ウキ

リヤムス氏を相手取り、此の程裁判所へ離婚の訴訟を提出しました。グウィンでなければウキリヤムス夫人は英國の退職軍人と、印度貴族の娘との間に産れた人で、オーストラリアで産湯をつかつたのです、父親の先祖はチャールス第二世の寵臣ネル・グウィンださ

うです。處でそのミス・グウィンが何故第七人目の良人でなくては納らぬのか、理由を聞いて見ると如何にも無邪氣で、單純で、あちらの女優氣質が遺憾なく表はされ、思はずニコくしないでは居られませんか。

最近に私があちらの友達から受取つた手紙によるとその詳しい消息が解ります、私の友達



(シキウグ、スンナ)

ある、七人目の御亭主が本當の御亭主だ——と云つたのださうです。あはれ彼女、それから云ふものは、この不思議な豫言を信じ切り、それを實現しようとして一生懸命に忙がしい思ひをしてゐるのです。結婚と結婚との間に舞踏を監督したり、劇を書いたり、それを演じたりするのですが、事實お嫁さんになる仕事の方がもつと忙がしいでせう。

今度彼女の女が離婚を訴へた第四番目の御亭主は、英國の退職軍人で、倫敦名うて

早く七人目の結婚が爲たさに
四人目の今の主人と離婚する
ミス・ナンス・グウィンが半生を結婚に忙殺されて居るのは、此人ばかりの罪ではありません。實はデヤニ・スカルデデーと云ふ印度人の占師が悪いのです。彼はグウィンがたつた十六歳の時「あなたの星は七つ

ユー會社の支配人として美術品の貿易に従事し、モルガンを始め米國の富豪達を得意にして、數百萬圓もするやうな繪畫を賣り込んで居る人です。勿論グウィンにとつて不足がない處か、立派な御亭主です。然るグウキンは當年にたつた二十七歳、まだ若々しい身、例の自分の運命を果す仕事の他には、一切無我夢中なのですからねえ。扱てそれにはまだ少くとも、三人の良人を探し出さなければなりません。

私は彼女が離婚の訴へを出した昨日の今日、或人の紹介で彼女と出會ひました。

『印度の占師が不思議な事を云ひましたさうですのね、一體まあその人は如何してあなたを、そんなに澤山結婚なさる婦人だと定めたのでせう?』
單刀直入に私は斯う切り込んだ。

不可思議極まる印度人の占師 新婚旅行の若夫婦の胸を冷す

『私の掌を見ましてね——かう凝然と顔を見て』と彼女は笑ひながら話しました『本當に占の神様のやうな人でしたわ、それがね、私の氣初の蜜月の時に最う七人目の良人の事を云ふちやありませんか、最初の良人はダビッド・ステュアートと云ひましてね、どんなにかその占を氣に病んだでせう、あの人と結婚したのは私がまだ満十六に一月足りない、まるでねんねえの時でしたのよ。私の兄弟の友達でしてね、二人共まあ、事のやうな調子でしたの、その前に私の祖父がなくなつて、結婚費用にと云つて、一萬ポンドの遺産を残して呉れましたの。私何よりも旅行が好きだつたものですからね、早く結婚してそのお金を貰つて、

好きな旅行をしたいばつかりに、飛び立つやうにして式を挙げましたの、遺言には幾歳で結婚しろとは書いてなかつたものですからね。

私は、ダビッドが好きで堪りませんでした。直ぐ一緒に蜜月旅行の世界旅行を致しました。そして香港まで来た時に、あの神様のやうなチャニーに會つたのです。大きな慈善市に出て居たのですが、他の占師のやうでなくて、脊が高く、長い黒い著物を著て、黒い頭巾を巻いてゐるその下から、眞白な髪の毛が垂れて居ようと云ふんですもの、交りつけのない印度人の顔色でしたが、あんなに白い齒を私はまだ見た事がありません。

商賣道具つたら、眼鏡も何も持つちや居ませんでした。只私の掌を驗べて、それから妙に、閃くやうな眼つきで、人の胸の底を見破りでもするやうに、私の眼を見下しますの、そして云ふ事には

「お前さんは、此世で一等大きい心持と云はれてある戀の、底の底の、本當の譯合を見抜くために、此世に遣はされた方ぢや、お前さんの星はヴィナスの神ぢや。お前さんは何度も人を戀する、人からも戀しられる。お前さんは七人の御亭主と結婚するぢやらう、その七

が一緒に居る處を見たいもんだ!」ダビッドはさう云つて怒りましたつけが、まあ如何しませう? 本當にそれから二月目になくなつたぢやありませんか。

それから私はダビッドの友達のエソック・ツラホードと結婚しました。處が、それも間もなく死んでしまひました。エソックが死んだので、私は初めてあの恐ろしい占師の云つた言葉を思ひ出して、ぞつとしたのです。もう、誰とも結婚なんかしますまいと決心してゐたのですがねえ。オーストラリアへ行つた時、オーストラリア人のトーマス・キャップレーと知己になりましてね、つひ戲談に若し又結婚するならあなたの處へ行きなすわと、たつた一言云つたのを本氣にして、二年の間も私について廻つて、とうとう結婚して此紐

人目になつて初めてお前さんの心から求めて居つた愛が満されるのぢや」
今でも、いつでも忘れられないやうな、ゆつくりした、刻み込むやうな調子で、さう云ひましたのよ。
彼の女の眼は暫く燃えるやうに輝いて居りました。たゞならず大きく、あをく、子供のやうに無心な眼! 本當に何時誰が見ても若々しい!

占は怖ろしいやう に的中して、二人 は死に、三人目と は離婚す

『其時は餘り夢のやうな話ではあり、一つには主人が非常に怒つてグンぐ私をホテルへ連れて歸るもんですから、可笑しくつておかしくつて、涙の出る程笑ひました。』
「俺が他が男とお前



(君諸員部支津部樂俱ニコニコ)

育へやつて来たのです。處が御存じの通り私が餘りバ

ツバとお金を撒くものですから、トーマスは終にたまらなくなつて、今度は相談づくで離婚して、私は今から四年前又候今の主人のウヰリアムスと一緒にになりました。それが極好人物なのですけれど、英國人なのですよ！

まあ世の中で、英國人程恐ろしい御主人はありませんせんわ、思つた女を手に入れる迄はどんな事でもしますけれど、一旦結婚したか最後朝晩に著更へる地味な著物を、たつた二枚あてがつて「それで満足おし——私の家内として十分世間から尊敬されるよ」ですつて！

四度目の結婚で、こんな可愛い女の兒が出来ましたのよ！

肌につけた笑ひ顔の赤ん坊の寫眞を私に見せた。『あの占師は、私に子供が三人あるつて云ひましたけれど、私は五十人もあつて欲しいわ、これまでの主人は皆な皆子供の嫌ひな人ばかりでしたから今度からは私子供に目のない人の處へ嫁かうと思ひますの』

五番目の候補者は幾らもある 中に理想的なのは米國小説家

『此次の五番目はどんな方？』

『理想のハズバンドは亞米利加人ですわ、實は一人小説家で候補者がありますの、年に五萬弗の收入があるんですつて、あの人なら屹度私を可愛がつて兒好きでせうよ、それからね、今一人七十五になるお爺さんで幾らでも私の好きな間だけ夫婦になつて呉れつて云ふ方がありますの、裁判がうまく行つたら、一寸の間その人にして可いんですけれど、兎に角、亞米利加人でなくつちや嫌ですわ』

此の離婚の訴訟は如何なる事でせうか、ナンス嬢はウヰリアムス氏が年收二萬乃至三萬弗で、おまけにやがて數百萬弗の遺産をうけつぐ人だからと云ふので、離婚後毎月一千弗づつの扶助料を併せて請求してゐます彼女がウ氏と結婚したのは、千九百十一年の二月二十八日で、此間最後の別居をした時に、手切れとして五萬弗の金を貰つてゐるのださうです。それにしてもお次ぎは果して誰？